

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
【めざす学校像】 ○温かい絆で結ばれた人間関係により、生き生きと活力に満ちた教育が営まれる学校 【めざす子ども像】 ○自他を尊重し、思いやりの心にあふれる生徒 ○主体的に学習に取り組み、進路を切り開く学力を身に付けた生徒 ○夢を抱き、その実現にねばり強く挑戦するたくましい体力と精神力を備えた生徒 【めざす教員像】 ○教育者としての使命を自覚し、その職責の遂行に努める教師 ○「師弟同行」の精神に満ち、生徒とともに汗や涙を流すことができる教師 ○生徒の人権を尊重し、厳しい中にも温かい心をもって指導する教師		長期欠席及び不登校生徒の減少、状況改善にかかる取組 新学習指導要領に示される資質や能力の育成 自尊感情を高め、社会性を育む取組	○不登校対応教員の動きを軸に、学習面・生徒指導面を総合的にとらえることができるよう、年度初めに組織体制づくりを行い、1年間の実践を通してより適切なものにして組織的な状況改善を図る。 ○キャリア教育とかかわる卒業後の進路を見据えた支援や指導ができるよう、不登校生徒等の保護者会や高校見学などを計画的に実施する。 ○校内研修のテーマを新規に設定し、計画的に新学習指導要領にかかる研修を推進していく。 ○主体的・対話的で深い学びの視点から積極的な授業改善を図り、校内で全教科の研究授業を実施して教員間で参観・協議を重ねていく。 ○生徒の自尊感情を高めるための教師の助言、指導の在り方等の研修を行い、全校及び各学年各学期等に効果的な行事や総合的な学習の時間、学級活動、道徳の時間の教育課程を工夫して編成する。 ○生徒会活動を中心に、生徒の主体的実践的な力を伸ばすことができるよう、教員の校務分掌の役割とリンクさせて、細やかに確実に支援を行う。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
長期欠席生徒の減少と落ち着いた学校生活の営み	・前年度より、長期欠席生徒を3名減、うち不登校生徒数を1名減にする。 ・学校公開等の保護者や地域の方へのアンケートで「生徒の学校生活」の項目に肯定の割合が85%以上になる。 ・休み時間、教室移動時等を中心とした校内巡回や様相観察・指導により、事故・いじめなど問題行動等の未然防止に努める。	○11月末時点、前年同時期比較で長期欠席2名増、不登校1名増になってしまった。一方で昨年度、まったく登校できていなかった生徒が数日ではあるがステップルームに登校できたり、登校日数が増えた生徒もいるなど、改善の状況も見られる。 ○アンケート「発表や意見交換等が積極的だったか」の項目で、1年生の参観者が「あまり積極的でなかった」と回答した割合が7%。他の項目は肯定の割合、ほぼ100%である。 ○休み時間には、学年教師が各学年のフロアや学級内で生徒とともに過ごしたり、管理職や生活補導主事等が校内巡回したりして、事故やトラブルの未然防止に努めている。	
確かな学力の育成	・校内研修で、次期学習指導要領を見据えた授業研究に取り組み、研究授業を実施して、授業力向上を図る。 ・学力関係の調査等で、全教科・領域とも昨年度と同様または向上した実績を達成する。 ・自学ノートを毎日提出した生徒や活用の工夫を図った生徒を毎学期調査し、毎日実施率50%以上を達成するとともに、表彰や掲示等全校に発信する機会をもつ。	○校内研修では、各教科等での授業研究を行い、指導案の作成や協議会を実施した。 ○全国学力調査や福岡市の定着度調査等、学力関係の調査では、ほぼ昨年度の同学年と同様、あるいは向上が図られている教科もある。2年生・3年生においては、昨年度より進級してからの学力向上が図られている教科がある。 ○自学ノートを毎日提出した生徒は、全体で58%程度であった。各学年でどんな工夫や活用をすればよいか、指導助言したり模範となるものを掲示したりしている。	
主体的継続的な実践力・表現力の育成	・生徒会各専門委員会重点目標と計画をもたせ、生徒が任期中に1つ確実に成果をあげることができるようにする。 ・校内の適切な場所に、生徒が主体的に気付き考え、実践意欲を高め持続できるよう掲示を意図的に作成・掲示する。 ・創立70周年事業の一環として行事や総合的な学習の時間等で、学校の歴史や伝統、仲間や地域、同窓生とのつながりを意識できる活動を毎学期複数回企画実施し、生徒の活動目標達成度70%以上を目指す。	○生徒会活動での各専門委員会等の目標達成のための手立ては、具体的に有言実行が図られ、各種コンクールや強化月間の取組の成果などが生徒集会で表彰されたり紹介されたりしている。 ○生徒会や学年職員による掲示物の工夫や定期的な張替が定着してきている。 ○3年生が記述した振り返り・感想の文章では、本年度の創立70周年事業として企画・工夫した行事や総合的な学習の時間の活動は、一人一人の心に残るものになっていたようである。学校の歴史や卒業生の軌跡を知る中で、卒業後の自身の在り方をしっかりと考えることができていた。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○立志式の企画も生徒の様子もすばらしかった。年々新たな取組があってバージョンアップしてきていると感じる。 ○70周年事業関係で例年よりいろいろな企画があってよかった。最近では、学校外(地域)でも、生徒の様子に気になることはほとんどなく、学校が落ち着いてきているのだろうと思っている。 ○不登校の問題では、生徒それぞれ原因は多種多様であろうから、難しい問題だと思う。 ○休み時間も生徒の様子を見守ったり、授業をしていない時間には、授業の準備などのほかに学級の生徒の自学ノートをチェックして一人一人にコメントしたりと、先生方の勤務は本当に大変だと思う。部活動の指導員配置などが話題になっているが、本当に先生方の負担軽減になるのか。			